

## xoBlos の運用管理

### xoBlos サーバー実行プログラムを起動する

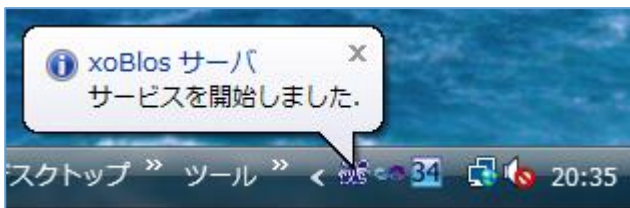
xoBlos サーバー実行プログラムは、内部で Excel を駆動する機能を有するため、Windows システムにログインし、デスクトップを表示する必要がありますが、Windows サービスとして稼働させる事ができません。

システム導入後や、xoBlos サーバー導入マシンの再起動後には、以下の手順で起動させてください。

《手順 1》 管理者権限を所有するユーザーで、ログインしてください。

《手順 2》 スタートメニューから「すべてのプログラム」→「xoBlos Server Edition」の「xoBlosServerHost」を選択します。

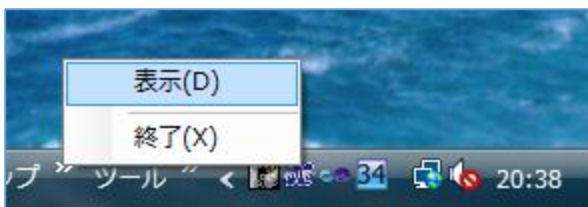
《手順 3》 サービスが正常に開始されると、タスクトレイにメッセージが表示されます。この後、デスクトップ画面をロックするなどして、セキュリティを確保します。



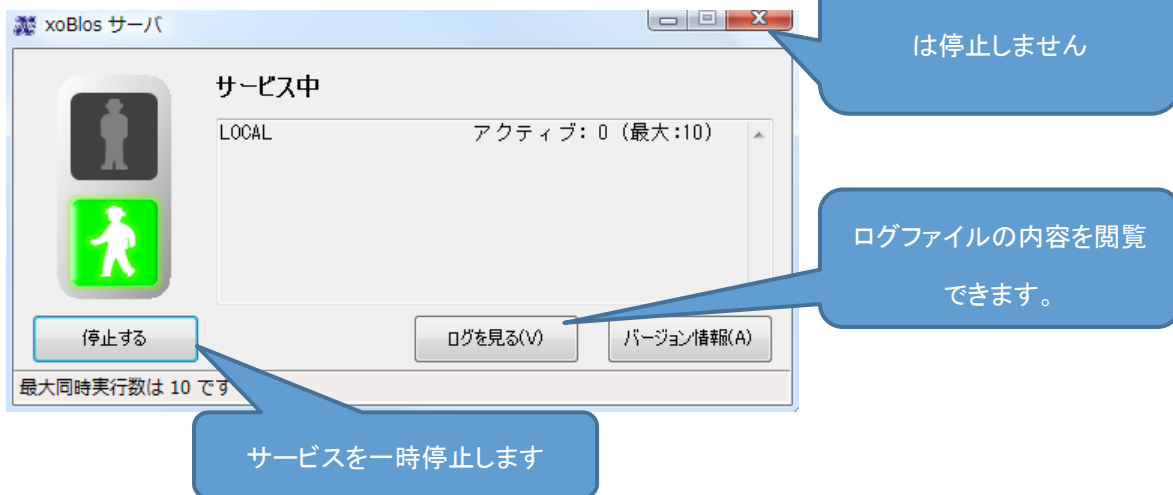
※ xoBlos サーバー実行プログラムは Windows のサービスではないため、ログオフするとプログラムが終了してしまいます。  
ログオフしないでください。

### 状態の確認

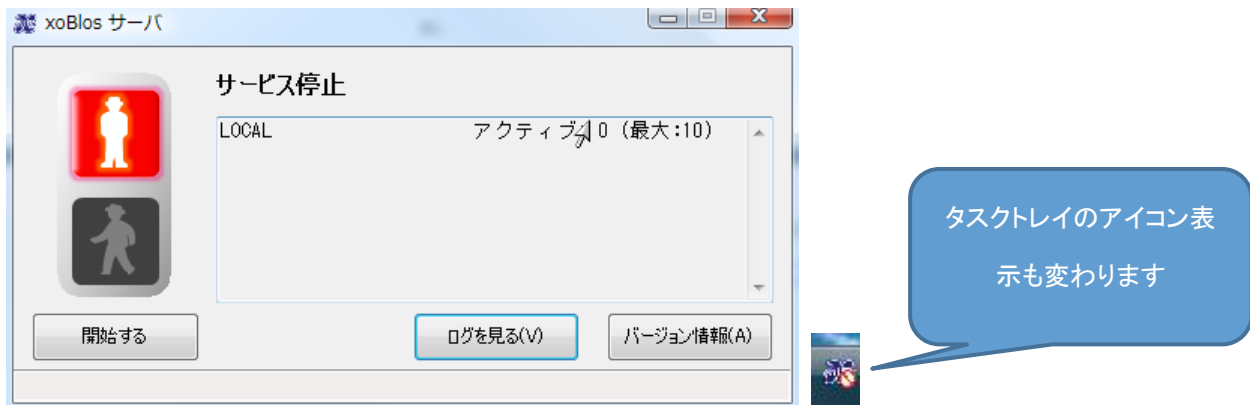
タスクトレイのアイコンをダブルクリックするか、右クリックして表示されるメニューから「表示」を選ぶと、xoBlos サーバーの画面が表示されます。



以下はサービス中の状態です。



サービスが停止している状態では、このようになります。



## xoBlos サーバー実行プログラムを終了する

xoBlos サーバーを終了するには、タスクトレイアイコンを右クリックして、「終了」を選択します。

## xoBlos サーバー実行プログラムをマシン起動時に自動的に起動する

xoBlos サーバーを起動するにはデスクトップにログインする必要があるため、サーバーマシンが再起動した直後などは、xoBlos サーバーが停止しています。サーバーマシンが起動したときに自動的に xoBlos サーバーを起動させるには、次の設定を行います。

1. xoBlos サーバーを起動する、管理者権限のあるユーザーでログインします。
2. コマンドプロンプトを「管理者として実行」し、起動します。

3. 次のコマンドを入力します (passwords2 にご注意ください)

```
control userpasswords2
```

ユーザーアカウント画面が起動します。

4. ここで、xBlos サーバーを起動するユーザーを選択し、「ユーザーがこのコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要」のチェックを解除します。

パスワードを要求されるので、該当ユーザーのパスワードを入力し、このユーザーが自動的にログインされるようにします。


5. このユーザーの「スタートアップ」に、xBlosServerHost のショートカットを作成します。

6. さらにスタートアップに次のコマンドのショートカットを作成します。

```
C:¥Windows¥System32¥rundll32.exe user32.dll, LockWorkStation
```

以上により、サーバーマシンが起動すると、自動的に指定のユーザーがログインされ、xBlos サーバーが起動します。自動ログイン直後にデスクトップ画面はロック状態となるので、セキュリティは確保されます。なお、この状態でも、このユーザーがログオフすれば、xBlos サーバーは停止するのでご注意ください。

## アカウントのロックアウト解除 (CoraboAccountUtil.exe)

Web UI の corabo のログインアカウントがロックアウトされた場合は、通常「システム管理者」でログインして、「ユーザー管理」から解除することができます。ビルトインアカウントがロックアウトされてしまい、corabo から解除できないときは、このコマンドで解除できます。コマンドプロンプトを起動し  次を実行します。

```
cd <xBlosHome>¥sbin
```

```
CoraboAccountUtil.exe /unlock user_id
```

(※A) (※B)

※A	/unlock	unlock モードの指定です。このとおりに指定します。
※B	user_id	ユーザー名

退出コード : 0 : 正常終了/ 1 : エラー終了。

※ エラー時のログはログファイル(デフォルトでは<xBlosHome>¥logs¥CoraboAccountUtil.log)に出力されます。